

どろんこぶた

アーノルド・ローベル 作

岸田衿子 訳



文化出版局 1971年 854円

お百姓さんのうちのこぶたは、やわらかいどろんこが、大好きです。ところが、大掃除でどろんこを掃除されてしまい、おこって家出します。おおきなまちにやってきたこぶたは、間違えて、道端でセメントづけになってしまいます。淡く彩色されたペン画が、こぶたの豊かな表情をいきいきと描きだしています。お百姓さん夫妻や、まちの人々の表情も楽しい、ユーモラスな絵本です。

なきむしうちえん

長崎源之助 作

西村繁男 絵



童心社 1983年 1500円

「ようちえんなんか きらいだよーっ」と、入園式の時から、毎日泣いてばかりいた、みゆきちゃん。やがて、うさぎをかわいがるようになり、たくましくなっていきます。芋掘り、やぎの世話、おとまり会、そり遊び…。ようちえんの四季が、子ども達の姿とともに、素朴な絵で描かれています。みゆきちゃんの成長ぶりと、子ども達のいきいきした様子が楽しい絵本です。

ねずみのすもう

大川悦生 作

梅田俊作 絵



ポプラ社 1977年 1000円

ある日、貧乏なじいさまが、山へ木をきりにいくと、2匹のねずみが相撲をとっていました。やせたほうは、じいさまのうちのねずみ、ふとったほうは、長者さまのねずみです。じいさまとばあさまは、ねずみのために、もちをつけてやります。有名な日本の昔話が、ユーモラスな絵本になりました。貧しいながら人のよいじいさまとばあさま、仲のよい2匹のねずみの表情が、いきいきと描かれています。